

# S I T ステレオパワーアンプ

## Proxima S I T-5000、S. I. T-7000 ( F A L )

\* 価格はS I T素子の供給状況により変わる可能性があります。  
詳しくは文末をご参照下さい。

### 参考価格

S I T-5000 ¥ 7 8 7 , 5 0 0 (税込)

S I T-7000 ¥ 9 8 0 , 0 0 0 (税込)

☆ S I T-7000は-5000の基本機能に低域ローブースト機能とスケルトン抵抗器式A T Tをプラスした製品です。



### 本機の概要と特長

「三極管特性で音が良い！」という噂のS I T素子を使ったステレオパワーアンプです。弊社もこのS I Tを試用してみると、あらためてそのポテンシャルの高さに驚かされ、本機の開発に繋がりました。S I Tの”凄さ”は、例えば「パワー段をMOS-FET、バイポーラTRからS I Tに換えただけで音のクリアーさが俄然違ってくる、あるいは電圧増幅用の小型S I TもFET以上に素晴らしい」等で、本機は全段（周辺回路は除く）をS I Tで構成することになりました。

次にS I T素子はなだらかな入出力カーブを描くためにカットオフしにくく、アイドリング電流と比べAクラス動作域が広がることも大きな特長です。本機でもヒートシンクはほんのり暖くなる程度ですが、30W程度までAクラスで動作いたします。また、電荷の蓄積も少なく高速でスイッチングするのでAクラス域を超してもクロスオーバー歪みは微小です。

### ◎各部材へのこだわり

◆独自開発のスケルトン（外装無し）のC、Rを多用しました。スケルトンパーツはエポキシ等、外装による音の混濁感がありません。さらにニゴリ感を減らすため、電解コンデンサーも総て外皮を剥いて使用しています。電源トランスは電圧変動の小さいカットコア製、配線材は手作り木綿外装7N銅線を使用するなど徹底しています。

信号入出力には金等のメッキ端子と比べ極めて色づきの少ない特殊表面処理ピンジャック、無メッキ高純度銅ターミナルを採用。アナログアンプの音はケースの材質に大きく左右されるため、本機では音の良いウッドパネルを天板、底板に採用しました。

### 【本機の特長&仕様】

- ◎出力60W×2/8Ω（約30WまでAクラス動作）
- ◎ひずみ率 0.003%以下（50W/8Ω）
- ◎定格入力 1V<sub>rms</sub>（0.5V S I T-7000）
- ◎左右別トランス、電源コンデンサーの完全モノラル構造
- ◎通電状態で安全に接続作業ができるSP出力オンオフ・スイッチ付き
- ◎各放熱フィン防振構造
- ◎電源仕様 100V（50、60Hz）
- ◎消費電流 約150W（無信号時）
- ◎本体寸法 150H×440W×330D
- ◎贅沢な構成ながら、このクラスとしては軽量の合理設計 約13kg

### [S I T素子の供給状況とS I T-5000の価格に関して]

S I T素子の供給は現在、非常に厳しい状況にあります。

これは、公には（株）デジタルドメインのみが製造&販売に関わっているためです。

素子の在庫が逼迫しているため、ごく限られたルートでしか素子の供給が許されていません。弊社の場合も素子の供給ルートは（株）ファル（F A L）のみで急激に素子の価格が高騰しています。またS I Tを組み込んだアンプの販売（価格を含め）にも制約があり、F A Lブランドでのみ販売の許可を得ています。（これはF A Lの古山氏が長きにわたりデジタルドメインと直接交渉され、海外にも売り込みに出られる等、ご尽力されているためです。朗報ですが、最近、S I T素子再生産の動きも見えてきました！…2011/8 現在）